

審 査 講 評

プロポーザル選定委員会
委員長 河野 博喜

1 はじめに

川田・美郷地区小学校及びこども園建設に係る基本・実施設計業務を発注するにあたり、高度な技術力や設計能力及び豊富な経験を有する設計者を選定するために、指名型プロポーザルを実施することとした。

2 審査の経過

(1) 第1回選定委員会

開催日 平成27年1月27日(火)
場 所 吉野川市役所 東館3階 231会議室
概 要 ・プロポーザル実施要項について
・評価基準について
・提案者の選定について

第1回選定委員会では、事務局から「川田・美郷地区小学校及びこども園施設整備に係る基本構想」及び選定業務の趣旨について説明を受けた後、プロポーザル実施要項及びプロポーザル評価基準等の審議を行い、プロポーザルの評価にあたっては、提案書の内容とヒアリングの結果により総合的に判断するものとした。

また、提案書の提出者を6社選定し、技術提案に係る課題について、次の課題を選定した。

- 課題Ⅰ 小学校とこども園が連携した施設を一体的に整備した全体のゾーニングについて
- 課題Ⅱ 地域の防災拠点としての施設について
- 課題Ⅲ 環境に配慮した施設について

(2) 第2回選定委員会

開催日 平成27年3月19日(木)
場 所 吉野川市役所 東館2階 221会議室
概 要 ・ヒアリングによる審査

第2回選定委員会では、3社から提出された提案書について、ヒアリングを実施した。課題に関する提案についての業務背景の理解度、発想力、独創性、成果達成の実現性や業務実施方針の妥当性、取組意欲の程度などについて、総合的に評価を行った。

(3) 第3回選定委員会

開催日 平成27年4月7日(火)
場 所 吉野川市役所 東館3階 231会議室
概 要 ・審査講評について
・提案書の採用について

選定委員の総合点を基に最終審議を行い、得点最上位の者を当該業務について最も適した設計者として採用し、次順位の者を次点者とする。

- ① 最優秀者 : 株式会社東畑建築事務所 大阪事務所
- ② 次点者 : 株式会社松田平田設計 大阪事務所

3 全体講評

川田・美郷地区小学校及びこども園建設事業計画は、川田・美郷地区の4小学校、4幼稚園及び2保育所を再編し、現在の川田中小学校の場所に新しい小学校及びこども園を一体的に整備する。「0歳から12歳まで一貫した教育、多様な教育・保育の実施」のコンセプトは、本県教育における先駆的な取り組みであり、小学校・こども園の連携モデルとして施設整備を行うものとする。

このため、今回のプロポーザルは、当該施設の設計業務に適した技術力、想像力及び経験をもった設計者による質の高い設計業務を実現するとともに、提案書の採用に係る透明性及び公平性を確保することを目的として行われた。

提案書を提出された3社は、一定規模の小学校の建築設計業務の実績を持ち、設計チームの編成に当たっても、それぞれ優秀な人材を配置するものとなっていた。また、全社一丸となった支援体制や専門アドバイザーに意見を求めるなど取組姿勢からも本業務に参加しようとする意気込みが十分感じ取れる内容であった。

課題に対する技術提案については、各社とも小学校とこども園の連携について与えられた条件を的確に把握し、課題に対して確かな裏付けをもとに細かな対応が示されていた。

以上、各社ともに本市が求める小学校及びこども園の理想にかなう優れた提案をいただいたが、総合的に評価した結果、A社の提案を採用し、評価点数第2位のC社を次点者とする。

4 個別講評

【A社】

コンセプトを明確にしたゾーニングがなされており、「庭」と「通り」により「交流」が促進され、子どもたち同士、また、教職員、地域と「つながる」ことに重点を置いた計画となっている。屋内運動場とメディアセンターが一体的に利用できる。特にステージはどちらからも利用できるなど有効利用の面で評価する。こども園については、外部空間に関しても各年齢により区分された庭が計画されており、安全性と交流面で評価する。また、環境面での提案では、過去の本市での実績による知識、データを最大限に活用した計画となっている。ライフサイクルコスト、CO2の削減提案、市産木材の利用や環境教育を考慮したエコスクールの提案も高く評価できる。

【B社】

屋内運動場の梁に大断面集成材を利用したり、市産木材を活用した木造ハイブリッド建築など、環境に配慮した計画になっている。教室前の屋外学習スペース、中庭芝生の野外劇場、エレベーター浸水避難運転機能等に工夫が見られる。一方でプールを2階に配置することで限られた面積を有効活用する点は評価できるが、災害時等の避難の際に階段が混雑する等の安全上の問題や維持管理面での課題が見受けられた。

また、小学校とこども園との連携が図れるとの説明であったが、提案のあったプランでは建物間の接続が渡り廊下のみであり、両職員室間も距離を感じる。十分な連携がとれるのかどうか疑問である。

【C社】

様々な交流を「紡ぐ学校」のコンセプトのもと、年齢や体格の違いによる明確なゾーニングを提案し、「交流の庭」「学びの庭」「コミュニケーションストリート」により園児・児童の交流が促進される計画となっている。2階建てでコンパクトにまとめられており、移動動線も比較的短く、運動場が広く確保されている。地下水を活用したハイブリッド空調システムなど独創的な提案、全教室とも採光が南側に考えられている点も評価できる。一方でイニシャルコストの低減における提案は評価できるが、「合理的な経済スパンの鉄筋コンクリート造」の項目には疑問を感じる。

「交流の庭」については、面積的に十分とはいえない。また、0歳から2歳児の保育室が2階に配置されるなど、災害時等、安全管理面において課題がある。外観デザインに関して、「地域の原風景との調和」というコンセプトであるが、外観パースからは伝わりにくいものである。